

岡山県議会議員 高橋とおる

県政レポート



高橋 徹 | 岡山県議会議員。1967年生まれ。岡山市立可知小学校、同旭東中学校、県立西大寺高校を経て1989年中央大学卒、同年(株)天満屋入社、2005年全天満屋労働組合中央執行委員長、2010年連合岡山会長、2015年岡山県議会議員初当選。趣味はランニング。

編集・発行/高橋とおる事務所 〒703-8271 岡山市中区円山107 ☎086-277-9900

E-mail/hi.bridge.0312@gmail.com ホームページ/toru-takahashi.jp

f フェイスブック/https://www.facebook.com/takahashi.tohru.9

平成28年度岡山県会計決算見込み

総務委員会報告

黒字続くも、財政状況は予断を許さず

8月10日に開催された県議会総務委員会で、県の平成28年度普通会計決算見込みが報告されました。歳入・歳出ともに前年度決算額を下回っていますが、特殊要因を除けば年度ごとに発生する通常の増減の範囲内で、大きな問題はなさそうです。歳入面では、為替レートや原油価格の影響で、輸出入に係る地方消費税収入が減少しています。県の産業振興政策の成果もあり、県内企業の経常利益は増え、その分法人税収入は伸びましたが、それが相殺されてしまった形です。実質収支は16億61百万円で黒字を維持しています。今回の決算見込みでは、将来負担率(※1)が2.5%増、

経常収支比率(※2)が3.2%増と、地方自治体の財政の健全さを判断する指標が前年度よりやや悪化しています。財政調整基金(※3)も20%(約48億円)減少しました。悪化幅が小さく、トレンドとして悪化傾向が続くとは考えにくい。ため、さらに財布のひもを締めあげるような状況ではありません。しかし、国の財政事情、人口の減少、今後増加し続ける社会保障関連費を考えると、歳入の伸びは期待できず、歳出は増加傾向という厳しい状況が続きます。ムダを省くとともに、優先順位を明確にし、メリハリを付けた行財政運営が求められます。

◆歳入・歳出の状況

歳入総額 6,858億円 (前年度比 Δ6.4%)

歳出総額 6,777億円 (前年度比 Δ6.3%)

◆収支の状況

実質収支 16億61百万円 (27年度 16億18百万円)

◆健全化判断比率等

実質公債費率 28年度11.4% (27年度12.1%)

将来負担率 28年度200.0% (27年度197.5%)

経常収支比率 28年度96.4% (27年度93.2%)

(※1)将来負担率…地方自治体の借入金(地方債)など抱えている負債の大きさを、その地方自治体の財政規模に対する割合で表したものの。大きいほど財政状況は良くない。

(※2)経常収支比率…地方税や普通交付金など毎年の収入に対し、人件費や扶助費、公債費など決まった支出が占める割合。地方自治体の財政の弾力性を示す指標で、総務省の指導では、道府県で80%を上回らないことが望ましいとされている。

(※3)財政調整基金…地方自治体が財政に余裕がある年に積み立て、不足する年に取り崩すことで財源を調整し、計画的な財政運営を行うための積立金。家計で言えば貯金にあたる。

どうなる、倉敷駅付近鉄道高架事業！

JR倉敷駅付近の鉄道高架事業は、推進に積極的な倉敷市と慎重な県との間で、ここ数年、綱引きが続いていました。事業主体の県が2013年に行った試算によると、事業費494億円に対し、渋滞解消による経済効果など、もたらされる便益（効果）は419億円。費用対効果（B/C）は0,85で、事業に見合う効果が期待できる1.0を割り込んでいることが事業推進の障壁になっていました。

今回、倉敷市は、仮想的市場評価法（※1）を取り入れ独自に便益を算出。踏み切り待ちのいらいら感解消や踏切事故の危険性低下による安心感の向上などの効果165億円を加え、便益を584億円としました。これによれば、B/Cは1.18となります。

私は倉敷駅周辺に住んでいたことがあり、同事業が地元の悲願であることはよく理解しています。他方で、同事業は、現在、県で検討されている公共事業の中でも最大級のものであり、後年に渡り財政に大きなインパクトを残します。事業単体の費用対効果の検証はも

ろん重要ですが、同事業を実施することによって、（財政上の制約から）諦めなければならない別の事業が出てくることも頭に入れておく必要があります。そういう機会損失のコストも考えたうえで、慎重に議論されるべきだと考えます。

この事業は、今後、大きな県政課題として議論が活発化すると思われます。数十年に渡る効果と費用を正確に見積もることは困難であり、最終的には政治判断が求められます。議会のチェック機能が問われる事案でもあります。今回、倉敷市が取り入れた便益の評価方法について検証するとともに、高架以外の渋滞解消策、踏切の安全対策などについても調査研究をしていきたいと思います。

（※1）仮想市場評価法…アンケートで、環境改善に対していくら支払ってもよいかを尋ね、市場価格が計測しにくい価値を算出する方法。自然環境の改善や快適性、安心感の向上といった便益を推定する。主に河川環境整備事業などに用いられる。

視察レポート



総務委員会の視察で、高梁市立図書館を訪問しました。TSUTAYAを展開するカルチャ・コンビニエンス・クラブ株式会社（CCC）が運営しています。年間の来館目標20万人を開館からわずか3ヶ月強で達成し、5ヶ月で30万人を超えたそうです。CCCが運営する公立図書館は全国で4例目。外観から内装まで統一テーマでデザインされていて、公立図書館とは思えないオシャレな空間です。それでいて、機能的で親しみやすく、何時間でもいられそうです。JR備中高梁駅と直結しており、スターバックスコーヒーも併設されています。フタ付きならドリンクも館内持ち込み可。民間活用の好事例として、私は評価しています。

県政報告座談会のご報告



8月12日（土）に県政報告座談会を開催。津村啓介衆院議員からの国政報告、高橋雄大岡山市議会議員からの市政報告に加え、中区岡山市議補選（10月1日投票）に立候補予定の下川倫史（しもかわ ともふみ）さん、江田五月元参議院議長からもご挨拶をいただきました。

お盆休みにもかかわらず、多くの方にご参集いただきました。会場からはご質問、ご意見が相次ぎ、温かくも活気のある集会になりました。ご来場いただいた皆様に心から感謝致します。